

原発是非 国民投票で

名古屋 実現目指しシンポ

福島第一原発事故 指すシンポジウムが二
で、原発の是非をめぐり 十八日、名古屋市内で
る国民投票の実現を目 あった写真。

市民グループ「みん

なで決めよう「原発」

国民投票」の主催で、

三十人が参加した。事

務局長でジャーナリス

トの今井一さんが「原

発は憲法改正に匹敵す

11/18/29
F日

る重要事項。政治家に

任せるのではなく、主権

者の私たちが決めるべ

きた」と国民投票の意

義を強調した。

シンポでは事前に愛

知、三重、岐阜三県の

衆参議員に参加を呼び

掛けた。唯一、参加し

た橋本勉議員（衆院比

例東海）は一議員

と国民の間には、

時に考えにギャッ

プがある。原発の

ような大きなテー

マはこうした形

（国民投票）が手

法としてあってい

い」と話した。



原発の是非「国民投票を」

市民グループ、中区で訴え



原子力発電の是非を問う手段として、国民投票を考える催しが28日、名古屋市中区の名古屋YWCAであった。市民グループ

「みんなで決めよう『原発』国民投票」（事務局・東京都）の東海3県の賛同人有志が主催。市民ら約50人が真剣に耳を傾けた。

住民投票について調査・取材してきたジャーナリストで、同グループ事務局長の今井一氏は「原発の問題は、将来の世代や外国にも影響を与え、憲法改正と同じくらい大事な問題。原発推進か脱原発かということは、直接国民に問うべきだ」と訴えた。

後半から参加した橋本勉衆院議員は「比例東海」は、「国民投票という直接民主制で決定するのが理想的だが、制度上の課題も多い」と応じた。参加者からは、「国民投票をすることで、議論が深まる」という意見もあるのでは「などの意見が出されていた。」

11/8/29 朝